

# 環境への取り組み

ハリマ化成グループは、「自然の恵みをくらしに活かす」を基本理念に創業以来、再生可能な植物資源「松」から得られる有用物質を人々の生活に役立つ製品に変えてお届けすることにより、循環型企業として事業展開しています。

## 地球環境の保全に向けて

### 環境に関する基本的な考え方

環境汚染の防止、環境負荷の低減に積極的に取り組み、全社で環境経営を推進しています。

### ハリマ化成グループ 環境方針

(2013年5月15日改定)

私たちは、「自然の恵みをくらしに活かす」を企業理念とし、一人ひとりが環境方針に基づき環境保全活動を積極的かつ継続的に推進します。

1. パインケミカル※1事業が、再生可能な天然資源の有効利用であることを意識し、生産から利用、廃棄に至るまで環境にやさしい商品の開発に努めます。
2. ハリマ化成グループが行う事業活動、製品、サービスに係わる法規制、協定およびグループ各社が同意したその他の要求事項を順守し、汚染の予防に努めます。
3. ISO14001に基づく環境マネジメントシステムの継続的改善を図ると共に、環境目的・目標を設定し、環境実績の改善に努めます。
  - ①環境負荷の低減(エネルギー、廃棄物、環境汚染/大気水質)
  - ②有害化学物質の適正管理
  - ③緑地の保全管理
4. 環境教育・啓蒙活動を通じて、ハリマ化成グループで働くすべての人への環境方針の理解と意識の向上を図り、社内外において環境に配慮した行動をします。
5. この環境方針は、関係企業、地域の住民方々などの利害関係者および一般の人々にも開示します。

## 地球温暖化防止への取り組み

### 地球温暖化防止に関する基本的な考え方

私たちは、くらしや産業の中で毎日たくさんのエネルギーを使っています。しかし、原子力発電を除くと、エネルギーの中心となっている石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料のほとんどを海外からの輸入に頼っている状況です。今後も安定的にエネルギーを確保していくため、化石燃料に替わるエネルギーの確保が課題となっています。

再生可能エネルギーは、自然界で繰り返し起こる現象から取り出すことができ、枯渇することなく、持続的に利用できるエネルギー源です。自然との関わりが深いハリマ化成グループにとっては、最重要課題として再生可能エネルギーの有効活用に取り組み、CO<sub>2</sub>排出量の削減に積極的に取り組んでいます。

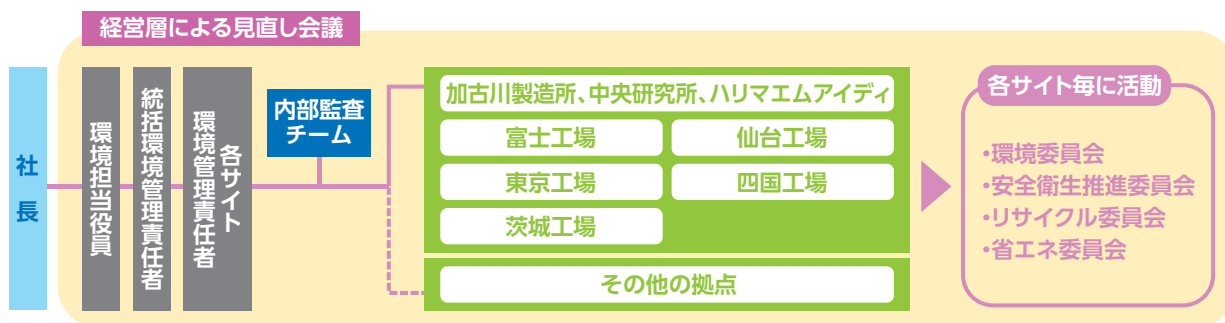
### CO<sub>2</sub>排出量の状況

ハリマ化成は創業以来、粗トル油※2を精製した後の副産品(以下、バイオマス燃料※3)を燃料として利用しています。2005年度からバイオマス燃料の有効利用をさらに推し進めバイオマス発電を稼働させることで、2009年度からはバイオマス燃料が全エネルギー使用量の6割を越えています。

バイオマス燃料は、CO<sub>2</sub>排出量がゼロと認められていますので化石燃料使用の場合に比べてCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減したことになります。バイオマス発電設備から発生する蒸気と電力は、加古川製造所のエネルギー全てを賄い、余剰電力を再生可能エネルギー※4として電力会社に販売しています。その結果、従来購入電力分と売電分に相当するCO<sub>2</sub>排出量が削減できています。2014年度のCO<sub>2</sub>排出量は、省エネ活動の推進、バイオマス発電の順調稼働などに加えて、ハリマ化成ポリマーの閉鎖にともない、製造を他拠点に移管集約したことにより、生産効率が向上し2013年度比2.6%削減できました。

## 環境管理体制

ハリマ化成は、各サイト毎に委員会、分科会を設置し、活動計画の審議や活動結果の評価、改善を行っています。

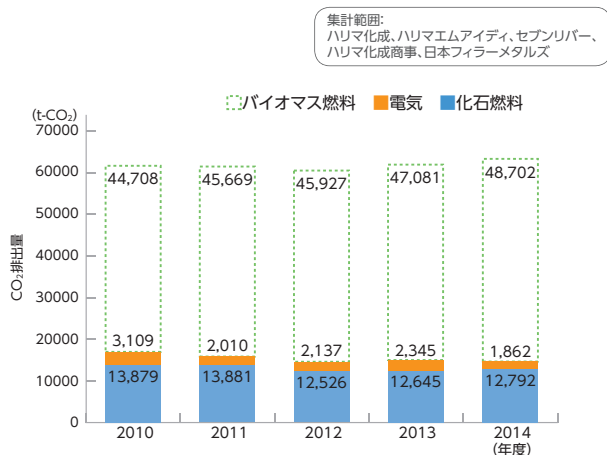


さらに、地球温暖化問題を最重要課題として認識し、CO<sub>2</sub>排出量削減にも積極的に取り組んでいます。

※1 **パインケミカル**:パインは「松」、ケミカルは「化学」であり、パインケミカルは、松の木から採れるロジン(松やに)、トール油、テレピン油などの有用な化学物質を扱う「松の化学」のことです。

### ●CO<sub>2</sub>排出量の推移

バイオマス燃料の利用により、CO<sub>2</sub>排出量を削減した値を考慮して以下のグラフを作成しています。



▲バイオマス発電設備

### ●物流部門での取り組み

エネルギーの使用の合理化に関する法律(2006年4月施行)の定める特定荷主として、輸送時に伴うエネルギー使用量の把握と省エネルギーの計画を立てています。

ハリマ化成の物流はすべて委託していますので、物流会社と協力しながら、輸送時におけるエネルギー使用量の削減に取り組んでいます。また、CO<sub>2</sub>排出量がトラック輸送より低いとされる鉄道や海運輸送へのモーダルシフト※5も一部実施しています。

- ※2 **粗トール油**:製紙業界で使用されるパルプを製造する際に、副生する植物由来の油分(ロジン、脂肪酸が主成分)。
- ※3 **バイオマス**:生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」をバイオマスと呼んでいます。
- ※4 **再生可能エネルギー**:石油・石炭などの限りある化石燃料と異なり太陽光や風といった自然現象が循環する中で取り出せるエネルギー。
- ※5 **モーダルシフト**:自動車や航空機による輸送を、より環境負荷の小さい鉄道や船舶の輸送に切り替えること。

### ●関係会社の取り組み

#### ブラジルから

#### Harima do Brasil Indústria Química Ltda.

#### 植樹活動

2014年10月15日、生物多様性の維持や地球温暖化防止、地域の自然保護を目的に、市役所の協力を得て苗木(和名:コショウボク)※6を調達し、工場近郊の保育所周辺に児童たちとともに150本の苗木を植えました。



▲植樹をする児童と従業員

※6 **コショウボク**:学名「Schinus molle」、通称「ペルーコショウ」とも呼ばれるウルシ科サンショウモドキ属の常緑樹。ブラジル名は「アロエイロ・サリサ」と言い、成木は15メートルまで成長する。

#### 中国から

#### 南寧哈利瑪化工有限公司

#### ボイラー燃料の天然ガス化

ハリマ化成グループは、CO<sub>2</sub>排出量の少ない燃料への転換をすすめています。

南寧哈利瑪化工では蒸気ボイラー2基、熱媒ボイラー1基を天然ガスと灯油の両方が焚けるボイラーへの更新を2014年2月に完了し、稼働を開始しました。その結果、2014年度のCO<sub>2</sub>排出量は、2013年度比10%削減することができました。



▲稼働を開始した天然ガス蒸気ボイラー

# 環境マネジメント

ハリマ化成は、環境方針を掲げISO14001に基づく環境マネジメントシステムを展開しています。全社の目的・目標に沿ってそれぞれの部門部署が年度目標を設定し、環境負荷の低減、環境保全活動を継続的に実施しています。

## 環境目標と実績

各テーマに対し中期環境目標(2015年度環境目標)を定め、その目標達成に向けて、年度ごとに具体的な目標を設定し、取り組みを推進しています。

### 2014年度実績と中期環境目標(2015年度環境目標)

評価基準 ◎:達成 ○:一部達成 △:取り組んでいるが目標達成に至らなかった ×:取り組みが不十分

テーマ	2014年度目標	2014年度実績	判定	関連ページ	2015年度目標
温暖化防止	電気使用量の原単位1%削減	原単位:6.2%削減	◎	P11-12	エネルギー原単位を毎年1%削減
	燃料使用量の原単位4%削減	原単位:1.6%削減	△		
	CO <sub>2</sub> 排出量を前年度より削減	CO <sub>2</sub> 排出量:5.6%削減	◎	P17-19	CO <sub>2</sub> 排出量を1990年比20%削減
	物流データ集計の精度アップ	原単位:4%削減	◎	P33	
資源の有効活用	廃棄物発生量の1%削減	発生量:11%削減	◎	P18	最終埋立処分量をゼロ
	ゼロエミッション※の継続(0.2%以下)	ゼロエミッション達成(0.0%)	◎		
化学物質の管理	PRTR対象物質の大気排出量1%削減	大気排出量:5%削減	◎	P34	化学物質管理システムによる一元管理
	環境関連規制の順守	少量新規製造届出	◎	P20	
	化学物質管理システムによる原料、製品の管理	・SDS作成支援 ・システムの改良	◎		
危機管理	人身有休:0件	人身有休:0件	◎	P22	リスク管理による防災体制の充実
	人身無休:前年比減	人身無休:10件(前年度比1件増加)	×	P33	
	公害防止の監視強化(環境苦情0件)	環境苦情:2件(前年度比±0件)	△	P30	
	緊急対応マニュアルの整備	マニュアルの見直しと訓練の実施(各拠点)	◎		
その他	内部監査のレベルアップ	・重点監査実施項目の設定 ・注意事項の充実	○	P14	内部監査員のレベルアップ
	マニフェスト電子化の推進	一部の拠点で電子化運用中	○		マニフェスト電子化の推進
	環境教育についてeラーニングを活用	「廃棄物の管理とグリーン調達」などの教材を揃えました	○		教育による環境意識の向上

集計範囲:ハリマ化成とハリマエムアイディ

※ ゼロエミッション:「ある産業から出る全ての廃棄物を他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを指すことで新しい資源循環型社会の形成を目指す考え方」として国連大学で提唱された。ハリマ化成は、「事業所から発生する一般、産業廃棄物の総排出量に対する埋立量の割合を1%以下とする」ことを目指している。

## 運営方法

環境マネジメントシステムの運営にあたっては、環境方針、環境目的・目標に基づいた「PDCAサイクル」を確立し、このサイクルを繰り返すことで継続的な改善と環境に与える負荷の低減に努めています。

また、毎年6月の環境月間には「環境目的・目標発表会」を開催し達成状況を報告しています。発表のあった取り組み事例については、今後の参考とするためイントラネットで公開しています。



◀ 第12回環境目的・目標発表会

## 環境教育

従業員一人ひとりの環境意識の向上を図るため、勉強会、講演会などを通じて継続的に環境教育・啓発を実施しています。

2014年度は、工場サイトの環境負荷実績報告会、省エネ勉強会、リサイクル勉強会などを開催しました。また、eラーニングシステムにおいて、環境に関する教材を選定し、環境教育に活用しています。

## 環境監査

### ISO14001に関する外部審査を受審

毎年、ISO14001認証審査機関による外部審査を受けています。2014年度の外部審査の結果、登録維持に問題はないと判定され登録を継続しています。

### ISO14001内部監査を実施

資格認定された監査員による内部監査では、環境マネジメントシステムが有効に運用されているか監査を実施しています。また、より効果的な監査を実施するため、毎回、内部監査員に重点的に監査する項目を指示しています。

## Topics ISO14001 認証取得拠点を拡大

ハリマ化成グループは、環境保全への取り組みを自主的に進め、継続的に改善していくためISO14001の認証取得を推進しています。

2014年12月、ハリマ化成の仙台工場・営業所と四国工場・営業所がISO14001の認証を取得しました。



◀ ISO14001認証取得に取り組んだ仙台工場・営業所の従業員



◀ ISO14001認証取得に取り組んだ四国工場・営業所の従業員

## ▶ 関係会社の取り組み

### 中国から

#### 杭州哈利瑪電材技術有限公司

### 海外従業員への研修

2014年7月7日～11日、グローバル人材を育成するため、杭州哈利瑪電材技術の従業員がハリマ化成グループ創業の地、日本の加古川製造所で研修を行いました。

参加した3名の従業員は、日本での安全・環境・品質に対する取り組みについて、実際に現場を体験しながら考え方やノウハウを共有しました。

この研修を通じて、安全・環境・品質に対する従業員の意識が向上し、知識のレベルが上がることを期待しています。



▲研修の感想を述べる従業員(右側)

## 環境配慮商品の開発

ハリマ化成は、「自然の恵みを暮らしに活かす」を企業理念とし、人と環境にやさしく、循環型社会の形成を目指したものづくりを実践するため、環境配慮のポイントを明確にした研究開発を進めています。

### 環境配慮商品の説明

#### 【1】環境配慮型塗料用樹脂

塗料用樹脂を取り巻く環境への対応、法規制は年々厳しくなっており、VOC※1削減の流れがますます加速されています。

このような状況の中、ハリマ化成では比較的毒性の低いミネラルスピリットなどの第3種有機溶剤を使用し、二液型樹脂に比べ廃塗料や廃容器を削減できる一液型で架橋性を有した高耐候な製品の開発に注力しています。

また、環境配慮の観点からコア技術である「合成樹脂技術」「乳化技術」の2つを組み合わせ、ハイソリッド樹脂、水系塗料用樹脂の開発も進めています。



環境ポイント

バイオマス資源活用

省資源

廃棄物削減

VOC対策

#### 【2】UVインキ用樹脂

UVインキ(紫外線硬化型インキ)は、伸び悩むインキ市場の中においても今後の成長が期待されているインキです。UV照射によりインキを乾燥(硬化)させるシステムはVOCの揮発がなく、環境配慮型インキの代表格として注目されています。技術的には省電力化、脱石化原料化、臭気対策、印刷品質の向上など改善の余地が多く残されている分野です。

ハリマ化成では非可食バイオマス※2原料であるトール油から精製されるトール油ロジン・脂肪酸を用いて、UVインキの課題解決に向けた樹脂開発を進めています。



環境ポイント

温暖化防止

バイオマス資源活用

省エネ

VOC対策

#### 【3】ポリアクリルアミド系紙力増強剤

紙は木材から加工されたパルプを原料としているだけでなく、紙自体もリサイクル可能な優れた素材です。この優れた素材に、リサイクルによって損なわれるパルプ繊維間の結合力を補い、再生された紙の強度を改善できる薬品が紙力増強剤です。

ハリマ化成のポリアクリルアミド系紙力増強剤「Harmide」は、紙のリサイクルだけでなく、紙の軽量化や紙の生産効率改善といった製紙産業における環境への取り組みにも、その効果を発揮しています。



環境ポイント

省資源

リサイクル

軽量化

廃棄物削減

特に、「地球温暖化対策」としてCO<sub>2</sub>排出量の削減へつながるバイオマス原料を積極的に活用し、自然環境に負荷の少ない商品、使用時に省エネルギーや廃棄物の削減に貢献する商品の開発に注力しています。

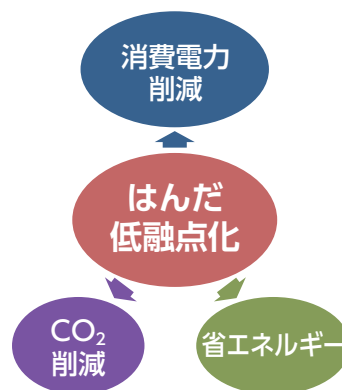
- ※1 VOC (Volatile Organic Compounds):揮発性有機化合物。常温常圧で大気中に容易に揮発する有機化学物質の総称。洗浄剤や溶剤、燃料として産業界で幅広く使用されています。しかし、大気や公共用水域や地下水などへ放出されると、公害や健康被害を引き起こすことから、改正大気汚染防止法により主要な排出施設への規制が行われています。
- ※2 非可食バイオマス:再生可能な生物由来の資源であるバイオマスのうち、食糧と競合しないもの。食糧と競合するパーム油、菜種油、大豆油などと違って、食糧として用いることのできないマファ油、ジャトロファ油などの非可食油や、セルロースなどの木質系バイオマス、微細藻類などがある。

#### [4]低融点鉛フリーソルダペースト

電子機器の組み立てには、接合材料として「はんだ」が多用されています。昨今、環境配慮や省エネルギーへの意識の高まりから、はんだ接合工程における消費電力量およびCO<sub>2</sub>排出量の低減が期待できる「低融点鉛フリーはんだ」への注目が高まっています。

一般的に低融点鉛フリーはんだは、接合強度などの面において、現在使用されている鉛フリーはんだに劣ると言われています。

ハリマ化成ではコア技術である樹脂合成技術を活用し、接着機能を付与することにより、高い接合強度を実現する低融点鉛フリーソルダペーストを開発し、環境負荷の低減に貢献していきます。



環境ポイント

温暖化防止

省エネ

#### [5]ハロゲンフリー鉛フリーソルダペースト

良好なはんだ付け性を得るために、ハロゲン(塩素、臭素など)を含む化合物はフラックスの成分として無くてはならない物質です。

しかしながら、ハロゲンはダイオキシン発生のもととなり、ガンなどの健康被害を引き起こす懸念があるため、これを低減させる動きが活発化しています。ハリマ化成もこのような業界の動きに迅速に対応し、ハロゲン化合物を一切含まないハロゲンフリータイプの鉛フリーソルダペーストを開発し、日本だけでなく世界中の多くのお客様にご使用いただいています。



環境ポイント

温暖化防止

#### [6]高熱伝導銀ペースト

LEDは、長寿命、省エネルギーなど環境に優しい製品として急速に普及が進んでおり、液晶テレビのバックライト、照明、自動車などの用途で幅広く利用されています。

LEDチップは発光する際に熱を発生するため、LEDチップから熱を効率的に逃がす必要があり、高放熱性の接合材料が求められています。

ハリマ化成ではこれまで培ってきた金属ナノ粒子配合技術を応用して、お客様のご要望に応えることができる高熱伝導性を実現した銀ペーストを開発し、国内外のお客様にご使用いただき、LEDの普及に貢献しています。



環境ポイント

温暖化防止

省エネ

省資源

廃棄物削減

# 環境負荷低減への取り組み

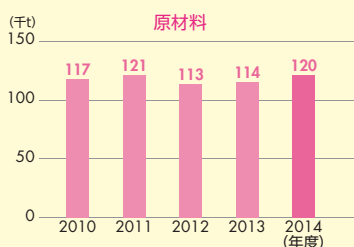
ハリマ化成グループは、資材の調達、生産、廃棄、リサイクルに至るまでの事業活動において、環境に与える影響を正確に把握することに努めています。

## 環境負荷フローチャート

### INPUT

#### 原材料

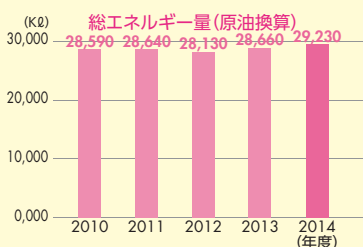
120千t



#### エネルギー



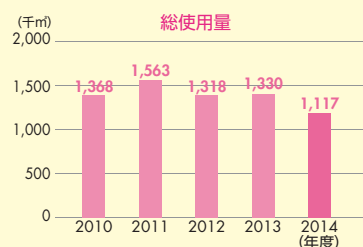
電力 20,500MWH  
化石燃料 5,882Kℓ  
バイオ燃料 18,200Kℓ



#### 水



上水道 54千m<sup>3</sup>  
工業用水 227千m<sup>3</sup>  
地下水 836千m<sup>3</sup>



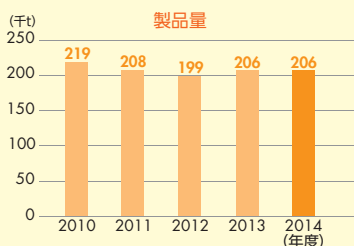
## ハリマ化成グループ(国内)事業活動

集計範囲:  
ハリマ化成、ハリマエムアイディ、セブンリパー、  
ハリマ化成商事、日本フィラーメタルズ

### OUTPUT

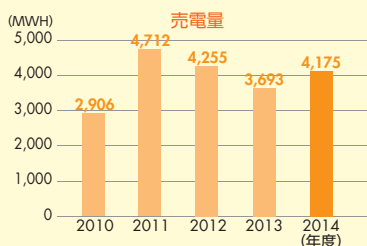
#### 製品

206千t



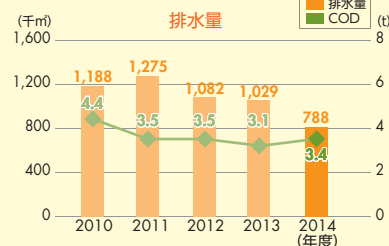
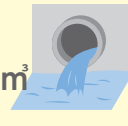
#### 電力

売電量 4,175MWH



#### 水域

排水量 788千m<sup>3</sup>  
COD※1 3.4t

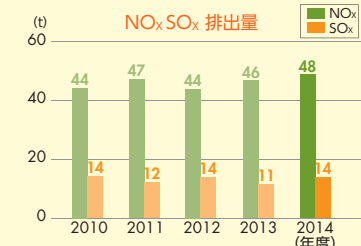


#### 大気

CO<sub>2</sub> 14,654t



NO<sub>x</sub>※2 48t SO<sub>x</sub>※3 14t



#### 廃棄物

社外排出量 2,405t

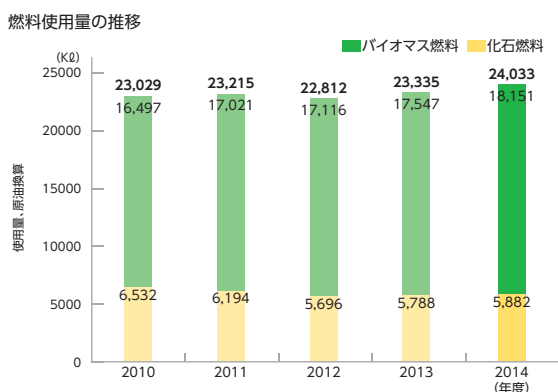


ハリマ化成グループは、事業活動にともない発生する環境負荷物質の低減に積極的に取り組んでいます。

## 環境負荷物質の低減

### 燃料の使用量

2014年度は、2013年度に比べバイオマス燃料、化石燃料ともに増加しましたが、CO<sub>2</sub>排出量は、工場閉鎖にともない製造を他拠点に移管集約し生産効率が向上したこともあり削減することができました。燃料の天然ガス化への転換を推進し、徹底した省エネ活動に取り組み、引き続き環境負荷物質の低減を進めていきます。



集計範囲:ハリマ化成、ハリマエムアイディ、セブンリバー、ハリマ化成商事、日本フィラーメタルズ

### NO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>およびCODの発生量

2014年度は、2013年度に比べボイラー稼働増によりNO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>ともに微増となりました。

排水については、工場閉鎖により排水量は減少しましたが、CODは微増となりました。今後もNO<sub>x</sub>、SO<sub>x</sub>、CODの監視を強化し、削減対策を講じていきます。

### エネルギーの「見える化」導入による省エネ

事業活動を行う上で必要な使用エネルギーの「見える化」システムの導入を進め、国内拠点にモニタリング機器を設置・展開しており、エネルギーロスの抽出や製造条件の最適化など生産活動における省エネに取り組んでいます。また、「見える化」にすることで従業員一人ひとりの環境意識を向上させ、現場改善につなげています。

## 関係会社の取り組み

### チェコから

#### Harimatec Czech, s.r.o.

#### 容器再生プログラムに参加

EU<sup>※4</sup>の包装廃棄物に関する指令<sup>※5</sup>の採択を受けて、各加盟国は国内における法制度化を進め、独自の容器包装廃棄物の回収・リサイクル機関を構築しています。

Harimatec Czechは、チェコのリサイクル法に従って、政府公認のリサイクル管理会社であるEKO-KOMのシステムに加入しています。

この法律は、容器を購入し、製品を詰めてチェコ国内で販売、流通させる会社に対して、廃容器のリサイクルにかかる費用の負担を義務付けるもので、廃容器の回収を促進するためにEKO-KOMのシステムに加入し、四半期ごとに排出量に応じた費用支払うことが必要です。

Harimatec Czechは、廃容器のリサイクル率を上げる活動に積極的に参加しています。



▲容器再生プログラム参加証明書

※1 COD:化学的酸素要求量。水中の汚染物質を化学的に酸化し安定させるのに必要な酸素の量。数値が高いほど水が汚れていることとなります。  
 ※2 NO<sub>x</sub>:ボイラーや焼却炉などの燃焼排ガスに含まれる窒素の酸化物。紫外線によって光化学反応を起こし、光化学オキシダントの原因となる。  
 ※3 SO<sub>x</sub>:ボイラーや焼却炉などの燃焼排ガスに含まれる硫酸酸化物。酸性雨の一因にもなります。  
 ※4 EU(European Union):欧州連合。欧州連合条約に基づく、経済通貨統合、共通外交・安全保障政策、警察・刑事司法協力などのより幅広い分野での協力を進めている政治・経済統合体。28カ国(2015年8月現在)が加盟している。  
 ※5 包装廃棄物に関する指令:1994年のEU指令「容器包装と容器包装廃棄物に関する指令94/62/EC」によって容器包装廃棄物の回収とリサイクルが規定された。指令の目的は、各加盟国で独自に行われている容器包装廃棄物の管理政策を調和させるとともに、達成すべきリサイクル率を目標として設定することで、環境保全レベルを引き上げること。



# 環境負荷低減への取り組み

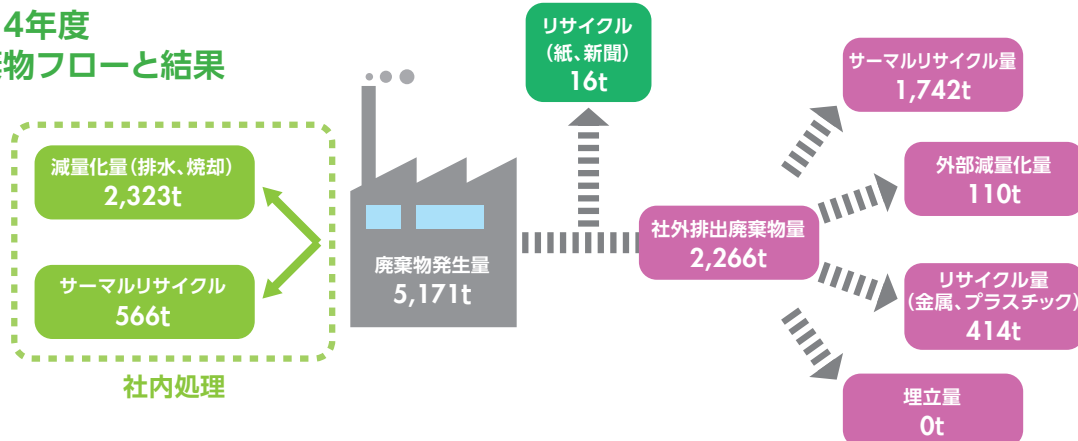
ハリマ化成は、循環型社会形成を目指した取り組みのひとつとして廃棄物の減量、リサイクルの推進、適正管理に努めています。

## 廃棄物の削減

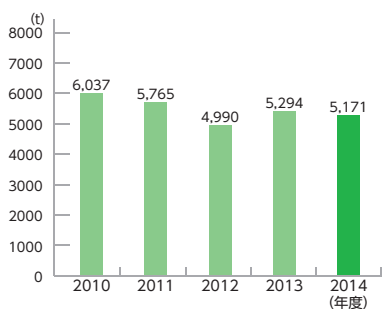
### 廃棄物発生量の内訳と推移

集計範囲:ハリマ化成とハリマエムアイディ

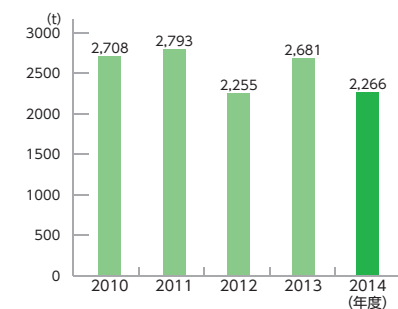
### 2014年度 廃棄物フローと結果



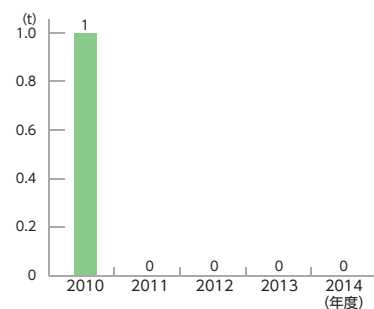
廃棄物発生量の推移



社外排出廃棄物量の推移



最終埋立量の推移



## ゼロエミッション※1

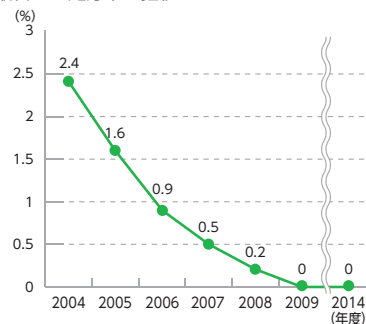
### ゼロエミッション継続中

過去、最終埋立処分率は2%以上で推移していました。

埋立処分のほとんどはバイオマス燃料の焼却灰※2であり、Na、Kを多く含むため、埋立処分となっていました。種々検討の結果、2005年度後半からセメントへの利用が可能となり、リサイクルできるようになったため、2006年度より最終処分率が1%以下となり、ゼロエミッションを達成しました。

2010年度には、廃ガラスのリサイクル処理も可能となり、2011年度は、さらに削減を進めて最終埋立量がゼロとなりました。今後もゼロエミッションを継続していきます。

最終埋立処分率の推移



※1 ゼロエミッション:「ある産業から出る全ての廃棄物を他の分野の原料として活用し、あらゆる廃棄物をゼロにすることを旨とする」こととして国連大学で提唱された。ハリマ化成は、「事業所から発生する一般、産業廃棄物の総排出量に対する埋立量の割合を1%以下とする」ことを目指しています。

※2 バイオマスボイラー焼却灰:バイオマスボイラーの燃料であるトール油副産品は、工程上、石鹼の酸分解を含むため、硫酸ナトリウムを多く含んでいる(灰分約1%)。このため、セメントへの資源化ができず埋立処分していました。

集計範囲:ハリマ化成とハリマエムアイディ

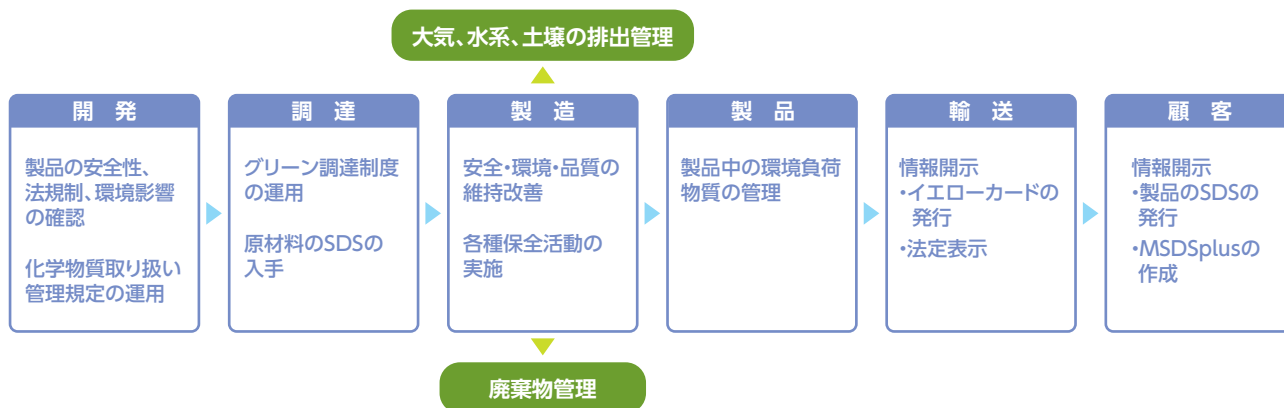
# 化学物質の管理

ハリマ化成グループは多くの化学物質を使用していますが、それらを適正に管理し、化学物質による環境汚染の防止と、環境負荷の低減を図っていくことは企業の社会的責任です。

## 化学物質管理の取り組み

取り扱う化学物質を的確に把握するため、製造する製品のみならず原料、副生物、廃棄物に至るまで、人への有害性、環境への影響について事前にチェックし、厳しく管理しています。

### 化学物質管理体制



## 各種法規制への対応

### 化学物質管理システム

製品の組成情報や安全性情報、法規制情報などを適切に管理し、有効に活用するため、「化学物質管理システム」を導入しています。製品中の含有物質に関するお客様からのお問い合わせや、法規制対象物質の含有確認、GHS<sup>\*1</sup>に対応するSDS<sup>\*2</sup>の作成などに活用しています。また、海外の関係会社への展開も進めています。

### 海外法規制への対応

REACH規則<sup>\*3</sup>の対応や中国新化学物質環境管理弁法<sup>\*4</sup>の施行、CLP規則<sup>\*5</sup>の届出など、複雑化する化学物質情報を正確に把握し、各国の連携を強化しながら、確実に対応を進めています。

## ▶ 関係会社の取り組み

### チェコから——

#### Harimatec Czech, s.r.o.

#### 化学物質管理システム説明会に参加

GHSに基づくSDSの作成が行えるようにするため、2014年7月11日、化学物質管理システムの使用方法について説明を受けました。Harimatec Czechからは実務者2名が参加し、習得に向けて実践的な内容で行われました。



▲説明を受けるHarimatec Czechの従業員(左側)

- \*1 GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals):化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いてわかりやすく表示し、その結果を製品ラベルやSDSに反映させ、災害防止および人の健康や環境の保護に役立てようとするものです。
- \*2 SDS(Safety Data Sheet):「安全データシート」とも呼ばれ、化学物質を安全に取り扱うために必要な情報を記載したものです。
- \*3 REACH(Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals):欧州連合における人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会および欧州理事会規則。
- \*4 中国新化学物質環境管理弁法:中国で製造・輸入する化学物質の管理について定めた法律。
- \*5 CLP(Classification, Labelling and Packaging of substances and mixtures):物質および混合物の分類・表示・包装に関する欧州議会および欧州理事会規則。